

After

在宅での心不全への対応など 循環器分野の知識も生かし、地域の健康寿命を延ばしたい

内科全般に加え皮膚科の知識なども必要な訪問診療

医療資源不足に悩む埼玉県の中でも、県北東部は人口10万人あたりの医師数が全国ワーストクラス。工藤氏が転職したふたば在宅クリニックは、この地域のほぼ中央に位置する久喜市にあり、地域が求められる在宅医療を提供している。

「訪問診療に出てみると、自分の内科の知識の一部に不安な点があると気づき、すぐに分野全体の再学習を始めました。加えて褥瘡のケアなど新たな分野の知識も必要で、最初のうちは慣れない訪問診療と勉強でかなり大変でした」

むろん今も勉強の途上だと工藤氏は苦笑し、こうした知識を大学病院時代に持っていたら、治療後の暮らしや困りごとをイメージしやすく、病気だけでなく患者のQOしまで考えた治療を検討できたかもしれません」とつけ加える。

「退院後は自宅療養ですと聞いて『では大丈夫ですね』と単純に考え

るのでなく、ご自宅は独居なのか介助するご家族と同居なのか、寝室は1階なのか2階なのかと、患者さんの暮らしまで意識できていれば、急性期の治療における目標、その後の療養に関するアドバイスなど、もっと適切な対応ができたのではと反省しています」

多様な分野の医師の協力を 地域が求める医療を提供

同院では9時に医師やスタッフがクリニックに集まり、当日訪問する患者のカルテチェックとカンファレンス。その後、看護師または救急救命士の資格を持つスタッフがドライバーを兼務し、医師と2人1組で訪問診療に出かける。

12時にいつたんクリニックに戻り、13時過ぎから再び訪問診療、17時頃に戻って、再度カンファレンスを行うといった流れだ。

「当院は主治医制で、基本的に担

た必要な医療を、患者さんのもとに行ける『動く病院』というコンセプトで応えています」

や土日祝日はオンライン当番医が

未知の分野に臆せず飛び込み働き方も暮らしも一変

大学病院や専門病院では循環器だけを診てきたが、訪問診療を始めて呼吸器や消化器の病気、がんなどを診ることが当たり前になつて、最近は「自分は内科医だな」と実感すると工藤氏は笑う。

「診療内容だけでなく生活も一変

しました。毎日17時半頃には帰途につき、オンライン当番でなければ夜も休日もゆっくり過ごせます。循環器分野が在宅医療で役立つ場面は増えると思います」

自分の知識や経験を同僚の医師やスタッフと共にし、地域の健康寿命の延伸に努めたいと話す。

「心不全パンデミックも懸念される現在、心不全末期の患者さんへの対応はもとより、その前段階から悪化を抑制するケアを行うなど、循環器分野が在宅医療で役立つ場面は増えている」

循環器専門医として経験を積んできたが、ほかの医師もさまざまな分野の専門家で、必要なときは互いにすぐアドバイスし合える環境も、地域医療の質の向上に貢献していると同院を評価。

「心不全パンデミックも懸念される現在、心不全末期の患者さんへの対応はもとより、その前段階から悪化を抑制するケアを行うなど、循環器分野が在宅医療で役立つ場面は増えている」と

循環器専門医として絏験を積んできたが、ほかの医師もさまざまな分野の専門家で、必要なときは互いにすぐアドバイスし合える環境も、地域医療の質の向上に貢献していると同院を評価。

「心不全パンデミックも懸念される現在、心不全末期の患者さんへの対応はもとより、その前段階から悪化を抑制するケアを行うなど、循環器分野が在宅医療で役立つ場面は増えている」と

循環器専門医として絏験を積んできたが、ほかの医師もさまざまな分野の専門家で、必要なときは互いにすぐアドバイスし合える環境も、地域医療の質の向上に貢献していると同院を評価。

「心不全パンデミックも懸念される現在、心不全末期の患者さんへの対応はもとより、その前段階から悪化を抑制するケアを行うなど、循環器分野が在宅医療で役立つ場面は増えている」と

循環器専門医として絏験を積んできたが、ほかの医師もさまざまな分野の専門家で、必要なときは互いにすぐアドバイスし合える環境も、地域医療の質の向上に貢献していると同院を評価。

「心不全パンデミックも懸念される現在、心不全末期の患者さんへの対応はもとより、その前段階から悪化を抑制するケアを行うなど、循環器分野が在宅医療で役立つ場面は増えている」と

循環器専門医として絏験を積んできたが、ほかの医師もさまざまな分野の専門家で、必要なときは互いにすぐアドバイスし合える環境も、地域医療の質の向上に貢献していると同院を評価。